

令和4年度 学校評価書 (計画段階(実施段階))

福岡県立糸島高等学校(定時制)

自己評価		評価(総合)	
学校運営計画(4月)			
学校運営方針	国家・社会における有能な人材たるべき資質の育成に努める。また、勤労の貴さを知り、国際的な幅広い視野に立ち、新しい文化の創造と発展に寄与し得る、心身ともに豊かでたくましい若者の育成を期する。	A	
昨年度の成果と課題	年度重点目標 具体的目標		
全職員での生徒への積極的な働きかけで、学校は非常に落ち着いている。授業改善については、教務部を中心として取り組み、一定の成果を上げた。ICT環境の整備に合わせて、ICT活用による授業改善を更に進めたい。生徒の特性に応じた個別の支援については、更に充実させる必要がある。就職支援については、進路指導部を中心に充実した支援を行った。ハローワークを通しての正規雇用を強く奨励し、正規雇用を増加させたい。また、本校定時制課程の魅力をもっと多くの人に伝える広報活動に力を入れる必要がある。	就業と就学を両立させるための強い意志と努力の精神を養う。		家庭との連携を密にし、保護者や専門機関と協力して生徒の悩みや不安の早期把握に努め、きめ細かい対応を通して生徒の学校生活の充実に努める。
	他人の個性を尊重する態度を養い、同時に自己の長所の伸長に努めさせ、自己肯定感を養う。		授業規律を重視し、落ち着いて学習に取り組める環境づくりに努め、基礎学力の定着を図る。キャリア教育を充実させ、自らの将来を真剣に考える生徒を育てる。
	高い規範意識を持たせ、明朗で協調性のある人物の育成を図る。	学校行事への積極的な参加を通して帰属意識を育むとともに、自らの長所に気付かせ、自己肯定感の涵養を図る。	学校行事への積極的な参加を通して帰属意識を育むとともに、自らの長所に気付かせ、自己肯定感の涵養を図る。
	社会規範やマナーを意識させ、その場にふさわしい行動ができる生徒を育成する。	生徒会活動や部活動の活性化を図り、自主性や協調性を育む。	学校行事やホームルーム活動を通して、思いやりを持ち、協力し合う関係を構築する。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
	項目ごとの評価
A	学校関係者評価委員会からの意見

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
生徒指導	生徒が安心して、毎日安全に登校できる環境を整備する。	あらゆる場面で他者に迷惑をかけない、他者への思いやりを大事にするという指導を徹底し、いじめの未然防止・早期発見に努める。	B	A	本年度も昨年度に引き続き、いじめ認知件数はゼロ件であった。生徒への積極的な呼びかけと、全職員の日頃からの生徒の状況把握により、学校は全体的に落ち着いていた。特に、年度始めは、各生徒が生活のリズムを掴むまで、些細な変化も見逃さないように生徒把握に注力したい。
	規範意識を身に付けさせる。	家庭訪問や職場訪問、個人面談を通して、生徒の生活環境を的確に把握し、必要な援助等を行い怠学や退学の防止に努める。	A		
学習・研修	生徒が意欲的に学習に取り組めるよう授業改善に努める。観点別評価により生徒の学習意欲を喚起し、ICT機器を活用してより効果的な授業の研究を進める。	効果的な観点別評価及びICT活用についての研修等を通して、アクティブ・ラーニングの視点に立った、授業改善に取り組む。	A	B	ICT担当教員を中心として、ICT支援員を活用しながら積極的に研修を実施し、職員のICT活用技術力向上を図った。次年度は、学習者用タブレット端末活用に関する研修を実施し、授業改善と共に観点別評価の充実を図り、生徒の学習意欲向上に努めたい。更に、学習意欲が高い生徒への授業以外の学習支援を充実させたい。
	教育相談を重視して、落ち着いた学習環境を整え、生徒の学習意欲の喚起を促す。また、中学校、行政と連携し、生徒の全人的な実態把握に努め、中途退学を防止する。	学級担任と協力してきめ細やかな指導を実施し、基礎学力の定着を図り、年度末の追考査受験生徒の減少を目指す。	B		
		全職員が授業規律に対して共通認識を持って指導を行い、「授業を大切に考える」生徒を育成する。	A	A	全職員で共通認識をもって授業規律を指導することができた。教室内の整備が十分でないところもあったので、次年度は、学習環境を整えることが、生徒の授業を大切にすることにつながるよう取り組む。新型コロナウイルス感染防止のための出席停止等により学習機会が十分に確保されていない生徒への学習支援を、組織的に取り組む。また、企業やアルバイトについて、幅広い情報を生徒へ提供することができた。学校から紹介された企業に、生徒がアルバイトとして採用され、その後正規社員に内定したこともあった。職場訪問は夏季休業中に実施し、生徒の就業状況を把握し、教員間の共通理解を深めた。次年度は、中学校および中学生保護者への広報活動を更に充実させたい。
		生徒連絡会、職場訪問、中高連絡会等を充実させ、その時々の生徒の状況の共有化を図る。また、教育相談に関する職員研修を実施し、生徒の学校生活の充実に努める。	A		
進路指導	将来の進路について、自ら積極的に考える態度を養うことにより具体的な目標が持てるようにする。併せて望ましい勤労観を身に付けさせる。	HR等を利用して実施する進路学習や卒業生講演会、進路ガイダンス等を通じて、将来の進路についてより具体的にイメージできるように指導を行う。	A	A	就職への準備について、昨年度より早い時期から生徒へ働きかけてきたことで、生徒の進路実現に対する意識と意欲が高まり、公共職業安定所訪問、応募前職場見学、正規職員採用試験応募の人数が昨年度よりかなり増加した。進学については、進学希望者全員が合格をすることができた。進路ガイダンスを更に充実させて、低学年から進学意識を高めると共に、生徒それぞれの状況やニーズを把握し支援を充実させたい。
		就職希望者には、ハローワークや民間就職支援会社等と連携しながら、就職セミナーや面談、会社見学等、積極的な進路支援を行い正規雇用に対する意識を高める。進学希望者には、学校見学参加を積極的に推奨する。	A		
	働くことの意義を理解させ、在学中から積極的に就業を奨励し、卒業後の人生や進路に活かせるように指導する。	生徒の就業状況を把握するとともに、アルバイトの情報等を積極的に提供し就業を勧める。また、生徒の努力している姿を積極的に公開し、中学校や保護者への広報活動に活かす。	B		
	夏季休業中の職場訪問を全職員で実施して、生徒の就業実態の把握と雇用の拡大を図る。	A	A	積極的に部活動をしている生徒がいた一方、全体としては参加率が低下した。生徒同士の交流を活発化するために部活動への参加を呼びかけ、より良い人格形成の場とした。	
部活動	部活動の参加意識を高め、日々の活動を通してより良い人格形成に努める。	部活動を通して協調性を高め、定通部大会で日々の活動の成果を発揮させることにより自己肯定感を高める。また、その取組の成果や反省を学校生活や社会生活で活かせるように指導する。	B	B	B

**自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策**

- ・生徒への働きかけを積極的に行い、生徒・保護者との良好な関係づくりに努める。生徒一人一人を大事にする定時制であることを地域に浸透させたい。
- ・ICTを活用した授業改善と観点別評価の確立に向け、職員研修会を実施し、教員の指導力向上を図る。
- ・系統だったキャリア教育を推進し、生徒に将来に展望をもたせ、進路実現へ向けて進学・就職の支援を十分に行う。
- ・家庭訪問、職場訪問を充実させ、生徒・保護者との信頼関係を築き、生徒の現状を踏まえたより良い支援を行う。
- ・部活動加入者を増やすために、新入生歓迎行事等での部活動勧誘や体験入部等を積極的に行う。

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	生徒同士および教員と生徒の人間関係づくりを大切にし、色々な特性をもった生徒に対応するために、生徒が相談しやすい環境および体制づくりをお願いしたい。
A	学習環境の整備について、黒板周辺や廊下の傘立て等、隅々にわたって整理整頓や清掃活動を行い、より学習効果が高まる環境にしてみたい。学習評価の改善と共に、学習者用タブレット端末を十分に活用する等、生徒の主体的で対話的で深い学びとなるためのICT活用を更に推進し、授業改善をお願いしたい。
A	本校の特色は何であるのかを明確にして、他校との差別化が必要である。学校ホームページで学校行事等を紹介し、生徒の成長した姿を積極的に発信することで、中学校・中学生・保護者、地域の方々に本校の良さが伝わるような広報活動をお願いしたい。生徒・保護者のニーズを十分に把握し、入学してきた一人一人の生徒を大切にすることこそが最大の広報活動である。
B	次年度の活動に期待したい。

評価項目以外のものに関する意見

- ・生徒による糸島高校前駅周辺の清掃活動は非常に良い。
- ・糸島高校前駅の生徒の利用マナーが良い。